な

世界史B問題

はじめに，これを読むこと。

1. この問題用紙は，14ページまである。ただし，ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか，受験票と照合し，確認すること。
3. 解答用紙の所定の欄に氏名を記入すること。
4. 解答は，すべて解答用紙の所定の欄にマークするか，または所定の欄に記述すること。
5. 解答は，必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入しなさい。
6. 訂正は，消しゴムできれいに消し，消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は，絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。また所定以外のところには，絶対に記入しないこと。
8. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
9. **解答用紙は，持ち帰らないこと。**
10. この問題用紙は，必ず持ち帰ること。
11. この試験時間は，60分である。
12. 解答をマークする場合の注意。

(マーク記入例)

良い例	悪い例
●	◉ ⊗ ◍

〔Ⅰ〕 次の文章をよく読み，下記の設問に答えなさい。

春秋時代から戦国時代にかけ，鉄器の普及にともない，農業や手工業が発達した。またそれにつれ，商品生産も発達し，貨幣も登場した。貝貨(子安貝)とともに青銅貨幣が用いられるようになった。青銅貨幣には，刀貨・布貨・［ア］・環銭(円銭)の4種類があった。戦国末期には，各国で環銭が用いられるようになった。秦が中国を統一した後，始皇帝は，形式・重量を一定にした円形方孔の銅銭を鋳造させ，全国的な通貨とした。それを［イ］と呼ぶ。

秦に代わった前漢[a]は，武帝の時，度重なる外征により財政が悪化し，それを打開するため，桑弘羊らの建議により，民衆の必需品である塩・鉄・酒の専売をおこない，さらに私鋳による貨幣価値下落及び物価騰貴を防ぐために新たな貨幣［ウ］を鋳造し，ひろく普及させた。この銅銭は，それ以後，隋まで長く使用された。

後漢末以降，中国は分裂局面に入り，続いて魏・呉・蜀が鼎立する三国時代を迎える。この分裂局面は，西晋[b]の一時的な全国統一はあっても，その後，五胡十六国時代，南北朝時代に引き継がれた。589年，隋の文帝［エ］(在位581～604)により，南朝最後の王朝，陳が滅ぼされ，中国は再統一された。文帝及び煬帝は，華北と江南を結ぶ大動脈である大運河を完成させ，魏晋南北朝時代以来，開発が進んだ江南の豊富な物資を北方へ送る輸送網をつくりあげた。これは，短命に終わった隋の後を継いだ唐の時代に，大いに利用され，その後も経済面において大きな役割を果たした。

魏晋南北朝時代における，魏の屯田制，西晋の占田法・［オ］，北魏の均田制[c]は，いずれも，後漢以来の戦乱が長期化し，農業が荒廃し，多くの農民が流民化するなか，どのように農業生産を立て直し，いかに租税や労役負担をになう農民を確保するかという国家的課題に，それぞれの王朝がこたえようとしたものであった。とくに北魏の［カ］(在位471～499)が実施し，隋・唐に受け継がれた均田制は，国家から一定の基準で土地を支給するという点に特徴があっ

た。だが，このような制度は，実際の働き手が少なく，それに比べて国家が裁量しうる土地が多いという前提の上にたっており，その前提が崩れれば，維持することは不可能であった。また，均田農民に対し，租税や労役負担[d]を，限度を超えて重く課せば，農民たちは再び流民化する可能性があった。

唐代に入り，政権が安定すると，まず農業生産が回復・発展し，人口は増加し，かつ商工業も次第に発展してきた。政治都市あるいは行政都市の一郭に公設の市を設け，官吏の監督のもと，交易が行われた。それ以外の，都市の郊外や地方農村に開設されたものは［　キ　］と呼ばれた。商工業の発展につれ，商工業者は行と呼ばれる同業者組合をつくり，唐の後期には［　ク　］と呼ばれる送金手形を使うようになった。

唐は安史の乱以降，停滞から次第に衰退に向かう。安史の乱のさなか，財政難にあえぐ王朝は塩の専売を実施した。これと徳宗期に始まる両税法の施行により，唐後期の財政はようやく維持された。だが，塩の専売は，民衆の恨みを買うと同時に，私塩の密売を横行させた。唐末，塩の密売人である［　ケ　］や黄巣を首領とする農民反乱が起き，唐を崩壊へと導いた。

宋代は，北あるいは西から，強力な遊牧民族が樹立した国家によって大きな圧力を受け，その国力は振るわなかったといわれている。だが，遼・西夏・金に対し，二百年にわたり歳幣・歳賜・歳貢などと呼ばれる大量の銀，絹などを贈り続けることが可能なほどの経済的な力を有していた。一種の富国強兵策である王安石の新法の評価についてはいろいろあるが，王朝時代とはいえ，国家というものが総合的な経済政策をもたなければならないという前例をつくったといえる。

宋は唐代を受けつぎ，農業および商工業が発展した。商品経済の発展により，貨幣流通量が増大した。この時代の貨幣である銅銭(宋銭)は鋳造量が多く，形もすぐれていたため，国外に流出し，日本でも広く使用された。また，幾つかの手形が発行されたが，なかでも，［　コ　］は，当初，四川で発行され，後に政府が引き継ぎ，世界最初の紙幣となった。紙幣は乱発されやすく，南宋[c]末には，それにより経済的な混乱が引き起こされた。

宋の経済的繁栄を象徴するものは，磁器であり，白磁・青磁などに代表され，宋磁と呼ばれる。名品で知られる磁器生産地は多いが，なかでも唐代に始まる江西省の景徳鎮は，中国第一の窯業都市としてよく知られており，中国を代表する商工業都市として，元代以降に引き継がれていった。

設問 1　文中の空欄(ア～コ)にもっとも適する語句を**漢字**で記入しなさい。

設問 2　文中の下線部(a～e)に関する下記の設問に，**漢字**で解答しなさい。

a　前7年，前漢哀帝のおり，大土地所有を抑制しようとして果たせなかった政策の名称を記しなさい。

b　晋(西晋)は，滅亡した後，晋の一族によって江南を中心に東晋として再興されたが，その樹立者の名前を記しなさい。

c　北魏が均田制を施行した後，財政確保と治安維持を目的として制定した農村隣保制度の名称を記しなさい。

d　唐代において，農民たちが租庸調以外に負担しなければならなかった労役をなんと呼ぶか。地方官庁のもとでの労働提供のことであり，具体的には土木事業や租税の保管・輸送など臨時の労役のことであり，負担は決して軽くはなかった。

e　北宋の滅亡後，高宗によって樹立された南宋は，北宋を滅ぼした金と対峙した。1142年の和議によって，両国の境界はあるラインに沿って定められた。その西側のラインは秦嶺であったが，東側のラインをつくっていたのは何か。

〔Ⅱ〕 次の文章(A～E)をよく読み，文中の空欄(1～10)にもっとも適する語句を記入しなさい。

A ロシアでは，日露戦争で苦戦が続くなか，1905年に血の日曜日事件がおこると，それに抗議して全国各地で労働者のストライキが生じ，被抑圧民族・農民も蜂起した(第1次ロシア革命)。皇帝ニコライ2世は十月宣言を発して，立法権をもつ国会(1)の開設，市民的自由などを認めた。革命運動が退潮にむかうと，皇帝は専制的姿勢を強めた。1906年，欽定憲法が発布されると，首相になった 2 は農村共同体(ミール)を解体し，独立自営農を創設しようとしたが挫折した。

B 北アメリカ植民地でフランスとの戦争に勝利したイギリスは，以後，植民地に対する統制を強化しはじめ，財政難から課税の強化をはかった。こうした本国政府の政策に不満をつのらせた植民地人は，1765年の 3 に対して，「代表なくして課税なし」という主張をおこなった。1774年，植民地側は大陸会議をひらいて本国に抗議し，翌75年の武力衝突でアメリカ独立戦争がはじまったが，本国との和解に期待をよせつつあった人々を独立へとかたむけたのは， 4 が1776年に出版したパンフレット『コモン＝センス』であった。

C ウィーン体制のもとでブルボン家が復活したフランスでは，ルイ18世が即位し，憲章という名称を使った憲法を制定し，きびしい制限選挙制をとる立憲君主制のもとに反動的政治がおこなわれた。ついで 5 が即位すると，貴族・聖職者を重んじるなど反動的政治をさらにおしすすめた。王は国民の不満をそらすために，1830年，オスマン帝国支配下の 6 出兵をおこない，また議会を未招集のまま解散するなど圧政をしいた。

D　1860年代からイギリス・フランスの財務管理下におかれたエジプトでは，こうした外国支配に対して1881～82年に［ 7 ］大佐が「エジプト人のためのエジプト」をとなえて反乱をおこしたが，1882年，イギリス軍に鎮圧され，事実上，イギリスの保護国とされた。さらにアフリカ南部では，ケープ植民地の首相となる［ 8 ］(在任1890～96)が帝国主義政策を推進した。その後イギリスは，1899年に南アフリカ戦争をおこし，トランスヴァール共和国とオレンジ自由国を併合した。

E　1880年はじめ，コンゴ領有をめぐるヨーロッパ諸国の対立がおこると，アフリカ進出の機会をうかがっていたドイツのビスマルクは，その仲介に乗りだし，1884～85年に［ 9 ］を開催し，ベルギー国王の私領としてコンゴ自由国の設立を認め，さらにアフリカ植民地化のための原則として，実効支配の原則を取り決めた。これにより，列強によるアフリカの植民地化が急速にすすみ，20世紀初頭には，アフリカは，［ 10 ］帝国とリベリア共和国をのぞいて，全土が列強の支配下におかれた。

〔Ⅲ〕 次の文章(ア～エ)をよく読み，括弧(①～⑩)のそれぞれの語句(A～D)からもっとも適するものを一つ選び，その記号を解答欄にマークしなさい。

ア 第二次世界大戦後のヨーロッパは，新たに形成された冷戦体制下で東西に分割され，国際政治・経済に対する影響力を大きく弱めていた。こうした背景の下，ヨーロッパを統合しつつ，米・ソ両大国に対する発言力を増強しようという動きが現れ始めていた。そのために，2度の世界大戦の主要な原因の一つとなっていたドイツと①(A イタリア，B フランス，C オーストリア，D ポーランド)との間の対立解消のための枠組みを創出し，ヨーロッパに恒久的な平和を構築することが求められていた。こうした地域統合の試みは，国民国家の枠を越えた資源や市場の共同利用を制度化することから着手された。1948年には，マーシャル＝プラン受け入れのための②(A ヨーロッパ経済協力機構，B ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体，C ヨーロッパ自由貿易連合，D ヨーロッパ経済共同体)が西側16カ国によって成立した。こうした国際機関は，各国間の単なる協力機関ではなく，超国家的機構として各国政府の政策決定に拘束力をもつようになり，1967年には，単一の閣僚理事会と委員会をもつヨーロッパ共同体(EC)へ統一されていった。

イ 1948年3月に4カ国で構成されていたドイツ管理理事会が，ソ連の代表の退場によって機能を停止すると，西側占領地区で通貨改革が実施され，新ドイツ＝マルクが導入されたが，これに対抗してソ連管理地区でも新東ドイツ＝マルクが導入され，通貨が二つに分裂した。二つの通貨が競合することになった③(A ボン，B ライプチヒ，C ベルリン，D ドレスデン)では，ソ連が東ドイツの通貨を防衛するために，西側からの鉄道・道路・運河の全交通路を遮断したが，一方，米・英・仏は，大規模な空輸作戦でこれに対抗した。1949年，西側占領地区では，ドイツ連邦共和国が，他方，ソ連管理地区ではドイツ民主共和国がそれぞれ成立した。西ドイツの初代首相④(A シューマン，B ブラント，C アデナウアー，D シュミット)は，ドイツの再統一を目指しつつも，西側の統合をまず優先させた。同首相が1963年に辞任する

と，キリスト教民主同盟は後継者問題に直面した。野党であった社会民主党は，マルクス主義を放棄した新しい党綱領(ゴーデスベルク綱領)を採択して，伝統的な支持基盤である労働者のほかに，ホワイトカラーやカトリックまで支持を広げて党勢を拡大していった。戦後最初の経済危機を経験する中で，1966年，二大政党であるキリスト教民主・社会同盟と社会民主党から構成される，キージンガー大連合内閣が成立した。

ウ　ソ連では1953年，その指導者スターリンが死去し，アメリカでは同年，⑤(A　アイゼンハウアー，B　トルーマン，C　ハーディング，D　マッカーサー)政権が誕生し，また54年にはジューネーブ休戦協定が調印されたことなどがきっかけとなり，第二次世界大戦直後からはじまった冷戦は，やがて米・ソ平和共存へと移りつつあった。とりわけ水爆と大陸間弾道弾(ICBM)の開発は，米・ソ双方に，軍備管理の交渉の必要性を認識させ，人類が全面核戦争の危機に直面した1962年の⑥(A　ニカラグア，B　ボリビア，C　アルゼンチン，D　キューバ)危機を克服してからは，米・ソの歩み寄りで冷戦のもとでの平和共存が促進された。冷戦体制下における国際紛争が，朝鮮戦争やインドシナ戦争のような，いわば米・ソの代理としての形をとった地域紛争として現実化していたことが，アジア・アフリカといった第三世界の人々にとって，国際平和を追求する大きなきっかけとなった。1954年，インドなど南アジア5カ国はセイロンのコロンボに集まり，インドシナ戦争の早期解決，核兵器の使用禁止などを決議した。1955年には，アジア=アフリカ会議が⑦(A　パレンバン，B　バンドン，C　デリー，D　ジャカルタ)で開催され，基本的人権や領土・主権の保全，対外不侵略などを定めた平和十原則が採択された。

エ　ベトナムでは，ジュネーブ協定後，北緯17度以南には⑧(A　ゴ＝ディン＝ジエム，B　バオダイ，C　ホー＝チ＝ミン，D　ファン＝ボイ＝チャウ)が1955年，ベトナム共和国(南ベトナム)を樹立し，大統領に選出され，アメリカがこれを支持した。その独裁的な権勢のために農民，都市知識層など広範な反発を招き，1960年には，南ベトナム解放民族戦線が結成された。アメリカは，農村での彼らの武装ゲリラ活動を共産主義の侵略とみなし，軍事介入に踏み出していった。1964年の⑨(A　アンナン，B　膠州湾，C　ディエンビエンフー，D　トンキン湾)事件を契機に，ジョンソン大統領は解放戦線への北からの補給路を断つために，北ベトナムへの爆撃を開始した。しかし，ソ連と中国が解放戦線を援助したこともあり，アメリカの予想に反して，戦争は泥沼化していった。だが，1972年のニクソン訪中を契機にベトナムをめぐる周辺の国際関係が変化し，73年にはベトナム和平協定が調印された。さらに，75年3月，北ベトナム正規軍が南下を開始すると，サイゴンの陥落によってベトナム戦争は終結し，南北ベトナムは76年，ハノイを首都とするベトナム社会主義共和国として統一された。一方，カンボジアでは，親米右派政権によって政権を追われていた⑩(A　スカルノ，B　シハヌーク，C　ヘン＝サムリン，D　スハルト)元首が，ポル＝ポトの指導する左派勢力である赤色クメールとカンプチア統一戦線を結成して，ゲリラ活動を展開した。やがて1975年には，解放勢力が首都プノンペンに進攻し，翌年，民主カンプチア(ポル＝ポト政権)を樹立した。

〔Ⅳ〕 次の文章をよく読み，下線(1～10)に関連するそれぞれの問(1～10)にもっとも適するものを(1～4)の中から一つ選び，解答欄にマークしなさい。

イタリア[1]に誕生した都市国家の一つローマはギリシア文明の影響をうけていたが，共和制のもとで積極的に征服・植民活動をおこない，やがて前1世紀には帝政を採用して，地中海を中心とする広大な帝国を築きあげた。以後，その版図ならびにその周辺地域においては，諸民族・諸国家がめまぐるしく膨張や分裂・収縮をかさね，歴史の舞台にあらわれてくることとなる。

ローマの平和のもとで膨張をかさねた帝国は，その後東西に分裂した。西ローマ帝国はゲルマン人の侵入をうけ，5世紀後半に滅亡したが，東ローマ帝国はビザンツ帝国[2]として，帝国の分裂以後1000年余り続いた。ローマが後世に残した最大の遺産は，ローマ帝国の統治のもとで発達した普遍的な法とキリスト教[3]であった。

しかし，7世紀頃よりビザンツ帝国の国力の低下とともに，地中海世界へと膨張してきたのがイスラーム[4]勢力であった。アラビア半島を統一したイスラーム教徒はシリア・エジプトを支配下に置き，北アフリカの地中海沿岸部を西進し，イベリア半島へと進出した。

西ローマ帝国滅亡後，西ヨーロッパ世界で大きな勢力となったのはフランク王国であった。このフランク王国に，ローマ教皇からローマ皇帝の帝冠があたえられた[5]ことから，一時的に西ローマ帝国の名称が復活したが，分割相続制をとるフランク人の慣習のもとで帝国は分割と統合をくりかえし，のちのイタリア・ドイツ・フランスの基礎がつくられていった。東フランク王位を継承したドイツ王は，10世紀半ばに2度のイタリア遠征をおこなうなどローマ教会に近づき，その後教皇からローマ皇帝の帝冠をうけ，ここにいわゆる神聖ローマ帝国[6]が誕生した。

13世紀末，西方に進出したトルコ人は小アジア西北部にオスマン帝国[7]をおこし，やがてバルカン半島に進出したのち，15世紀半ばにはコンスタンティノープルを陥落させてビザンツ帝国をほろぼした。一方，イベリア半島ではレコンキスタと呼ばれる国土回復運動がキリスト教徒の手でおしすすめられ[8]，15世紀末

にイスラーム勢力を一掃した。それは同時に，オスマン帝国を介さずに東方物産を手に入れようとする海外への膨張のきっかけとなった。

当初，大西洋とインド洋に乗り出し，植民地帝国を築きあげたのはスペインとポルトガル[9]であったが，16 世紀末からはオランダが，そして 17 世紀にはいるとイギリス・フランスが海外への膨張の中心となった。そして，18 世紀初頭から中期にかけて，英仏間で戦われた植民地戦争にことごとく勝利をおさめたイギリス[10]が広大な植民地帝国を形成し，産業革命への準備を整えていくのであった。

問 1　古代ギリシア，またはローマ世界に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　ペロポネソス同盟によって勢力をえたアテネに対し，デロス同盟の盟主スパルタは脅威を感じ，前 431 年，両者はペロポネソス戦争に突入した。

2　イオニア学派の祖，デモクリトスは万物の根源を水と考えた。

3　395 年，ユリアヌス帝はローマ帝国を東西に分割して 2 子にわけあたえた。

4　プトレマイオスが天文学の書で天動説をとなえ，この説は，その後イスラーム世界をへて中世ヨーロッパに伝わった。

問 2　ビザンツ帝国に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　7 世紀以降，公用語としてラテン語がもちいられた。

2　ビザンツ帝国は，セルビア王国を滅ぼし，その領土を帝国に編入した。

3　726 年，皇帝レオン 3 世は聖像禁止令を発布したが，聖母子像などをえがいたイコンは，ビザンツ帝国に特徴的な美術である。

4　7 世紀以降，軍管区制(テマ制)がしかれ，農民に土地をあたえるかわりに兵役義務を課すプロノイア制が導入された。

問 3　ローマ法，またはキリスト教に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　東ローマ帝国のユスティニアヌス大帝が，トリボニアヌスら法学者を集めて，『ローマ法大全』を編纂した。

2　コンスタンティヌス帝は，313年のニケーア公会議においてキリスト教を公認した。

3　トラヤヌス帝は，三位一体説をとなえるアリウス派を国教とした。

4　エフェソス公会議で異端と宣告されたネストリウス派は，中国へ伝わり，祆教と呼ばれた。

問 4　イスラーム世界に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　バグダードの大商人による迫害をうけたムハンマドは，622年，信者をひきいてメディナに移住し，イスラーム教徒(ムスリム)の共同体(ウンマ)を建設した。この移住をヒジュラ(聖遷)という。

2　ムハンマドは『旧約聖書』と『新約聖書』をイスラーム教にさきだつ神の啓示の書とみなしたため，ユダヤ教徒とキリスト教徒は「啓典の民」として信仰の自由を認められた。

3　ウマイヤ朝のもとでイスラーム法が整備され，すべての信者は平等であると説く『コーラン』の教えにもとづいて，アラブ人以外のイスラーム教徒にもアラブ人と同等の権利があたえられた。

4　第4代カリフのアリーを父とし，ムハンマドの娘ファーティマを母とするものの子孫であるとするスンナ派の一派がたてたファーティマ朝は，969年，エジプトを征服して首都カイロを造営した。

問 5　フランク王国，またはローマ教会に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　カロリング家のクローヴィスは，481 年，フランク王国を建設した。

2　教皇やフランク王権からも支持を得たベネディクト派修道院は，6 世紀にイタリアのモンテ＝カシノで創設された。

3　教皇レオ 3 世は，800 年，サン＝ピエトロ大聖堂においてカール＝マルテルにローマ皇帝の冠を授与し，西ローマ帝国の名称が復活した。

4　843 年のメルセン条約により，西ローマ帝国は東・西・中部フランクの三つに分裂した。

問 6　神聖ローマ帝国に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　2 度にわたるイタリア遠征の結果，ドイツ王ハインリヒ 1 世は，962 年，教皇からローマ皇帝の帝冠を受け，ここにいわゆる神聖ローマ帝国が誕生した。

2　大空位時代以後，神聖ローマ帝国の皇帝はすべてハプスブルグ家の出身であった。

3　マリア＝テレジアの子ヨーゼフ 1 世は，神聖ローマ皇帝を兼ねていたにもかかわらず，宗教の自由を認め，教育や税制の改革，農奴解放を試みた。

4　ナポレオンが 1806 年，西南ドイツの 16 の諸邦をまとめて，みずからを盟主とするライン同盟を結成したため，オーストリア皇帝は神聖ローマ皇帝の地位を放棄し，帝国は消滅した。

問 7　オスマン帝国に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　オスマン帝国のセリム1世は，1453年，コンスタンティノープルを占領し，ビザンツ帝国を滅亡させた。

2　スルタンの軍隊は，ティマールを保持する騎士軍団とシパーヒーと呼ばれる歩兵軍団からなっていた。

3　第2次ウィーン包囲に失敗したオスマン帝国は，1699年のカルロヴィッツ条約で，オーストリアにハンガリーとトランシルヴァニアを割譲した。

4　アブデュル＝メジト1世は，1876年，ミドハト憲法を発布した。

問 8　イベリア半島におけるキリスト教徒とイスラーム教徒の争いに関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　イベリア半島に進出してブルグンド王国をほろぼしたイスラーム勢力は，しばしばフランク王国に侵入したが，732年，トゥール・ポワティエ間の戦いに敗れ，ピレネー山脈の南にしりぞいた。

2　アッバース朝が建国されるとウマイヤ朝の一族はイベリア半島にのがれ，756年，トレドを首都として後ウマイヤ朝をたてた。

3　北アフリカにおこったムワッヒド朝はイベリア半島に進出したが，キリスト教徒の国土回復運動の高まりのなかで敗退した。

4　カスティリャ王子フェルナンドとアラゴン王女イサベルの結婚により成立したスペイン(イスパニア)王国は，1492年，イベリア半島最後のイスラーム王朝，ナスル朝を滅亡させ，国土回復運動を完了させた。

問 9　スペイン・ポルトガルの海外膨張に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　1488 年，ヴァスコ＝ダ＝ガマはアフリカ南端の「嵐の岬」を発見し，ポルトガル王ジョアン 2 世が「喜望峰」と名づけた。

2　1493 年，ローマ教皇によって定められたスペイン・ポルトガルの植民地分割線（教皇子午線）は，翌 94 年，両国の間で結ばれたサラゴサ条約によって改められた。

3　1533 年，ピサロはインカ帝国をほろぼし，首都リマを破壊した。

4　ドミニコ修道会士ラス＝カサスは，エンコミエンダ制のもとでのインディオの酷使を糾弾し，スペイン国王カルロス 1 世に報告した。

問10　近世・近代のイギリスに関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　1588 年，イギリスはレパント沖の海戦でスペインの誇る無敵艦隊（アルマダ）を破った。

2　チャールズ 1 世は，航海法を施行してオランダの中継貿易を排除しようとしたため，第 1 次イギリス＝オランダ戦争がおこった。

3　北アメリカでは，オーストリア継承戦争と並行してフレンチ＝インディアン戦争がたたかわれ，イギリスが勝利した。

4　イギリスは 1826 年，ペナン島・マラッカ・シンガポールをあわせて海峡植民地を成立させた。

〔V〕　イギリスが 19 世紀にアジアにおいて展開した三角貿易について，3 行以内で説明しなさい。